# 小規模校における情報ネットワーク（マルチメディア）の活用方法について
## －集合学習とＴＶ会議システムを活用した学習の一体化－

犬山市小規模校ネットワーク推進事業
研究代表者　前田重信

協同研究者
長瀬信義　　松浦茂樹　　中野太四　　天野　功
大角秀夫　　大脇文彦　　伊藤寿啓　　森田　直　　中野金弘

要約

犬山市には、小規模校の小学校が３校あり、山の手３校と呼ばれている。こうした学校の子どもたちが、やがて何校かの小学校が集まった中学校に入学すると、今までの少ない人数で学校生活を送っていた生活経験上、多くの仲間と関わり方が上手くできずに、萎縮してしまう傾向がある子どもも少なくない。しかしながら、少ない人数で学校生活を送ることは、子どもたちの一人一人の個性を十二分に伸ばし、伸び伸びと明るく素直な子どもたちの育成をしているという、本来の教育の姿が小規模校の良さでもある。

そこで、本研究では、同じ特徴の子どもたちを持つ３校が寄り添い、インターネットを用いて情報交換や学習の共有を図ることで、互いの良さを確かめ合い、子どもたちの自信として身につけていこうとする研究である。

これまでの大きな流れとして、Ｈ．１８から山の手３校での交流活動が始まり、職員の研修を深めながら、インターネットによるＴＶ会議システムを用いた交流学習と、いずれかの学校に集まり体験的な活動をする学習を年２回行ってきた。そして、本研究の年に当たるＨ．２０は、インターネットを用いた交流活動を行う対象学年を中学年とし、そして、それを踏まえて高学年で集合学習を行い、共通体験をもつことで交流を図る３校の交流事業を推進してきた。Ｈ．２０を踏まえたＨ．２１は、この活動を、さらに全校に広げ、低学年では、インターネットを使ったＴＶ会議システムで、仲間を見つける自己紹介と学校紹介をし、中学年では、互いの意見や思いが伝えられる学習に取り組んだ。さらに高学年では、これまでの活動中で相手の学校の仲間を知った子どもたちが実際に出会い、同じ学習活動を通して仲間意識を深める活動を行った。これにより、低学年から高学年への目指す子どもの姿の系統的な流れをつくることができた。この研究実践により、次のことが明らかとなった。

○　インターネットを用いたＴＶ会議による交流活動を行うことは、小規模学校でも大きな集団としての意識が生まれる。

○　低学年から系統的な行う活動を設定することで、少しずつ他の学校の同学年の仲間を意識し、さらに、自分のたちの学年や学校を見直すきっかけにもつながっていく。

○　他の学校の良さを認め、それを自分たちにも取り入れようとする気持ちが芽生え、学習意欲や学校生活の意欲付けにつながる。

○　毎年行うことで、高学年で集合学習として実際に会ったときの仲間意識が大きくなり、出会うことへの感動がより強くなる。

以上のような研究の成果が挙げられる。

---

代表者勤務校：犬山市立池野小学校

## １．研究のねらい

犬山市の栗栖小学校、今井小学校、池野小学校は山の手３校といわれ、岐阜県と愛知県の県境にある。どの学校も山に囲まれて、豊かな自然環境を情操教育に生かし、たくましく心豊かな人間性の育成に取り組んでいる。また、それぞれが小規模校の特色を生かし縦割り協力班の活動を中心に、楽しい集団生活を営んでいる。さらに地域の特色ある素材を教育活動に取り入れ、郷土を愛し「生きる力」や自主的に「自ら学ぶ力」を育んでいる。

しかし、小規模校の現状は、少人数のため、人間関係が限定され、社会性を欠く傾向があったり、大きな集団生活に不慣れな部分が生じたりしている。また、複式学級によって、学年差による系統性、経験度等に配慮した授業が難しく、コミュニケーション、発言、行動力にやや乏しい消極的になりやすい傾向にある。

さらに、同一少人数で生活している子どもたちは、児童集団の中で序列が作られ、新しい発見や考えが生まれにくく、ものの見方や考え方を深めたり、広めたりすることが困難であり、切磋琢磨して粘り強く追求することが難しいのが現状である。また、複式学級という異年齢で同時に学習することは、子どもたちにとっても、教師にとっても、思考を大切にした学び合いの授業等の創造には多くの課題がある。

本事業においては、３校で情報通信ネットワークをモデル的に構築し、大画面テレビなどのマルチメディア機器等を整備することにより、３校の同時双方向の授業等の実現を可能にし、集団性の涵養、表現力の育成など、小規模校の課題解決に向けた実証的、実践的な研究を行うものである。また、３校同時に行う遠隔授業の前後に、学習内容に直結したネットワーク上での３校児童による協調的な学習の機会を多様に設け、生徒自身が情報機器を活用して課題の解決を図ったり情報を交換して学び合うネットワーク型協調学習環境を試行するものである。具体的には小規模校のマルチメディアネットワークを活用した、「集合学習」と「ＴＶ会議システムによる遠隔合同事業」、ネットワークを活用した「協調学習」を融合的に活用した学習方法を模索し研究実践することで以下のような成果を期待するものである。

○　３校のマルチメディア（ＴＶ会議システム等）の活用によってネット学習が可能となるため、集合学習が容易になされ、多様な発想や考えに気づき、自分の思いや考えを深め学び合いの授業を可能にする。

○　ＴＶ会議システム等を活用した集合学習は、リアルタイムのよさがあり、同時・双方向での遠隔ティームティーチングが実践でき、コンピュータでのイントラネット化やメール等を併用するとより、児童及び職員の人間関係の広がりができる。

○　ＴＶ会議システム等を活用し情報を収集したり、発進したりすることで、それぞれの学校の特色や地域との環境の違いを肌で感じることができ、改めて、自分たちの学校や地域の良さ知ることができる。

○　テレビ会議システムなどを利用した同時的な遠隔合同授業の前後に、その内容に密着したネットワーク上での意見交換、課題提案、解の交換、コメントや質疑の機会を多様に設け、メール、ブログ、wiki を使ってのファイル交換などネットワークを情報交換に利用する多様な手法を使いながら理解し、それらを柔軟に利用できる能力を身につけさせる。

本研究において、３つの小規模校を情報ネットワークで結ぶことにより、多様性のある魅力的な授業が展開できる。また、それぞれの学校内では児童同士がこれまで築いてきた助け合いや学び合いの力をよりどころに、ネットワークを「使わなければできない」協力体制を作り上げることができる。そのことは、一人一人の児童が情報技術を使いこなして社会性と学習能力を身につけ、主体的・積極的に学習に参加する活力ある教育活動を実現することを目指している。

２．研究の内容

①　第一年次(平成２０年度）　学習内容の整備とマルチメディアの研修

○　先進校の情報収集と視察研修

○　大学（専門家）による研修

○　研究主題と研究内容の検討

○　３校のマルチメディア機器（ＴＶ会議システム等）の設置と機器構成の研修

○　３校での集合学習とＴＶ会議システム等の基本的取り組み

・　研究授業（道徳）

・　研究授業（総合的学習）

○　研究助言校である中京大学情報理工学部との連携によるネットワーク活用に基づく協調学習カリキュラムの開発と実践的な検討

○　３校のマルチメディア（ＴＶ会議システム等）活用の職員研修

②　第二年次(平成２１年度）　　交流学習指導内容の研究と系統的な学習方法の整備

○　集合学習とＴＶ会議システムを活用した学習指導方法等の研究

○　３校双方性のＴＶ会議システム活用した学習プログラムの研究

○　交流事業と対象学年の検討（各教科との連携）

・　道徳　「多様な考え方の交流」……ＴＶ会議

・　国語　「話すこと・聞くこと」……ＴＶ会議

・　学活　「競い合いながら、仲間を知る」……ＴＶ会議

・　総合　「学校の特色を生かした交流」……ＴＶ会議

・　理科　「自然を通して共有する交流」……ＴＶ会議

・　社会　「歴史を通して発見する交流」……集合学習

・　体育　「ゲームを通した交流」……集合学習

○　ネットのモラルについての職員の共通理解

○　３校のマルチメディア（ＴＶ会議システム等）の今後の活用についての職員研修

３．研究の実践

（１）　一年次の実践（平成２０年度）

①　活動計画

研究の一年次ということで、研究主題と研究内容の検討を行った。本研究が、３校であり、小規模校であるという利点を生かして、集合学習とインターネットを活用したテレビ会議システムを用いた研究を推し進め、子どもたちのコミュニケーション能力を付けさせていく活動計画を練った。さらには、３校での共通理解を高めるため、こうした研究の先進的な実践例や概念、これからの研究方向を学ぶための研修会を企画した。その他、次のような活動計画を立て実施した。

○　３校のマルチメディア機器（ＴＶ会議システム等）の設置と機器構成の研修

○　３校での集合学習とＴＶ会議システム等の基本的取り組み

・　テレビ会議システムを用いた研究授業及び集合学習（総合的な学習）……５・６年生

・　テレビ会議システムを用いた研究授業（総合的な学習）……３・４年生

○　研究助言校である中京大学情報理工学部との連携によるネットワーク活用に基づく協調学習カリキュラムの開発と実践的な検討

②　研究実践Ｉ（犬山市小規模校ネットワーク推進事業夏季研修会）　３校の職員対象

○　期日　平成２０年８月７日（木）　　（中京大学）

日程

＜ 午前の研修 ＞　　１０時００分～１２時００分　（途中１５分の休憩）

・　情報教育推進のための施策と研究の方法講演　　（講師　　三宅　なほみ　先生）

・　グループワーク

＜昼食交流会＞　　１２時００分～１３時００分

・　大学の教室で弁当を食べながら３校の職員の交流を深める

＜午後の研修＞

・　概念地図ツール・ビデオコメントツールの活用方法講師
　中京大学情報理工学部　　１３時００分～１４時００分

・　犬山市コンピュータ委員　　活用の実際と体験
　　１４時１０分～１５時３０分

・　三校連携プロジェクト事業のあり方（司会＝中野）
　　１４時１０分～１５時３０分

| |
|---|
| 研究のテーマと研究のねらい<br>過去２年間の研究の取り組み<br>池野小＝陸上記録会の合同練習<br>栗栖小＝「ＴＶ　会議システム」を生かした３校学校紹介交流会<br>今井小＝探鳥会を通しての交流会<br>栗栖小＝ＴＶ会議システムを生かした道徳授業<br>平成２０年度の取り組み<br>　入鹿池対岸の遺跡探検（池野小）<br>　ＴＶ会議システムを生かした道徳授業（今井小） |

・　日常における教師・児童のネットワークの活用

・　その他・情報交換

○　成果と課題

・　中京大学での三宅教授の講義で、情報教育推進のための施策と研究の方法を三校の職員が認識し、共通理解を図ることができた。

・　中京大学の学生のサポートでパソコン操作がスムーズにでき、授業での活用方法をよく理解できた。

・　参加者職員が共通テーマをグループに分かれ、「学習の動議づけ」について討議していく場面では、互いの理解方法や、論理的に考えをまとめていく体験ができ、大変勉強になった。

・　講義の成果をどう生かすのかは、教師の意識と力量に委ねられる面が大きいと思われた。

・　今後においては、ネットワークを日常的に活用する学習環境を各学校で、模索していく必要性を感じた。

③　研究実践Ⅱ　ネットワークを活用した総合学習授業　池野小担当

○　日時　　平成２０年9月１８日（木）　　１４：００～１４：４５

○　対象児童　　高学年（５・６年生）（池野小：２４名・今井小８名・栗栖小８名）

○　ねらい

・　小規模校ネットワーク事業においてＰＣネットワークの構築を図る。

・　テレビ会議システムを利用し、互いの学校紹介や入鹿池探検事前学習をすることにより、小規模校間の交流を図る。

○　交流内容　進行：池野小

・　開会の言葉・・・・・・・・・・・（２分）

・　あいさつと講師紹介・・・・・・・（３分）栗栖小校長

・　学校紹介・・・・・各学校５分
・　入鹿池探検について（進行：池野小児童代表）
入鹿池の歴史（５分）・・・・・・・（池野小２班）　　＊栗栖小質問
入鹿池の遺跡と出土品（５分）・・・（池野小３班）　　＊栗栖小質問
遺跡出土品の記録方法（５分）・・・（池野小４班）　　＊今井小質問
当日の持ち物・ボートの安全な乗り方・探検隊旗の作り方・・・（池野小５班）＊今井小質問
・　質疑応答（５分）・・・・各学校から
・　先生からの連絡（各学校から）・・・（５分）
・　閉会の言葉

○　その他
・　各校において、学校紹介の準備・リハーサルを行っておく。
・　機器の設定・操作等については、石川コンピュータに委託。

＜成果と課題＞
・　池野小が推進役ということで、入鹿池探検については、昨年度からの取り組みの実績があったので、比較的計画が立て易く、交流授業のイメージも持ち易かった。
・　池野小児童が、事前学習したことを他の２校に説明する形態で進めたので、時間配分がしやすかった。
・　ゲストＴを迎えたので、専門的な質疑応答にも対応できた。
・　カメラを各学校のビデオ用カメラに直前に変更したため、映像が鮮明になり、大変きれいな写りになった。
・　各学校の紹介場面では、工夫が見られ、パネルなどを効果的に使うことができた。
・　発表を聞いて質問をお願いしたが、今井小、栗栖小には、事前学習の時間が十分なく、遺跡については、歴史的な内容でやや小学生には、難しい面もあったようである。
・　リアルタイムでお互いの表情や雰囲気を伝えることができたが、意見交換や考えを深め合うまではいかなかった。
・　機器の操作を業者依存にお願いしているが、今後は職員で扱える機器で対応できるとよいと思われる。

④　研究実践Ⅲ　入鹿池遺跡探検（集合学習）　池野小担当

○　ねらい
・　３校の５・６年生を対象に入鹿池周辺における遺跡の調査活動を通して、地域の歴史や文化財の理解を深める。
・　３校の児童が積極的にかかわり、コミュニケーション能力を高める機会とする。
・　授業や学習の中で、自分の課題を設定し、解決するための態度を育てる。

○　日時
平成２０年１０月１日(水)〔予備日１０月３日（金）〕　※中止決定７：３０に連絡
※　実施は、台風接近のため１０月３日となった。
午前８時３０分～午前１２時
・　集合８時３０分→ボート乗船８時４５分→目的地着９時１５分
→現地調査説明９時１５分～３０分→現地説明９時３０分～１１時→ボート乗船１１時
→堤防着１１時３０分→調査成果発表１１時４０分～１２時

○　場所　　入鹿池対岸（遺跡散布地）・・・明治村聖ザビエル天主堂入り江付近

○　内容

・　入鹿池堤防からボートに乗り、対岸まで渡り、講師の説明を聞いた後、遺跡の調査や発掘をする。

○　その他

・　講師には愛知県埋蔵文化センターの赤塚次郎氏と犬山市教育委員会学芸員の渡邊樹氏を依頼する。

・　夏季休業中の８月２７日（水）午後２時より現地の下見を各校の担当者が行う。
（池野小へ午後１時３０分に集合）

・　入鹿池探検当日までに、ボートの乗り方や操作方法及び安全について事前指導を行っておく。

・　持ち物（探検バック、チャック袋（学校で用意）名前ペン、筆記用具、雨具、水筒、ナップ）

・　服装・・・長ズボン、長そでシャツ、帽子

○　参加者

池野小・・・・・　児童（２４　）名
　　引率教師（　３　）名
今井小・・・・・　児童（　８　）名
　　引率教師（　３　）名
栗栖小・・・・・　児童（　８　）名
　　引率教師（　２　）名
講師・・・・・・　２名（赤塚次郎氏　　三宅なほみ氏）　　報道・・・・・・　１名

○　成果と課題

・　天候にも恵まれ、活動を計画的に進めることができた。

・　手こぎボートに乗るという、日頃できない貴重な体験ができた。

・　３校が集まり、「集合学習」としてふさわしい内容であり、児童の意欲的な活動が見られた。

・　遺跡調査は、知識をもとに、自分で探し見つける活動であったが、どの児童も目を輝かせ、時間内に土器の破片や石器の一部を収集することができた。

・　専門講師の同行で、土器や石器を鑑定してもらうことができ大変助かった。さらにその場で指導を受けることができ、土器や石器に対する児童の関心や興味が一段と高まったと思われる。

・　現地での合同グループ活動では、お互いの交流も図れ、コミュニケーションが深まった。

・　今回の学習素材は、地域の歴史や文化を理解するためにも大変有意義であり、これを機会にお互いの郷土を見直すチャンスにしたい。

・　下見を２回したが、目的地の確認が地図上と景観の両面からでき、大変良かった。

・　ボートの所要時間が、予定より時間オーバーであったので終了が遅れた。

・　事前学習の内容が三校それぞれ違っていたので、今後は、３校の担任で連絡を取り合い、基礎知識の押さえをどこまでやるかを確認しておきたい。

・　児童の輸送が、福祉バスから職員の自動車になったので、今後、検討していきたい。

・　収集した物の整理や分類を集合学習として、どうするのかを今後検討していきたい。

・　今後も地域素材を生かした交流学習を続けるならば、今井小や栗栖小も地域素材の提案を考えて頂くとよいと思われる。

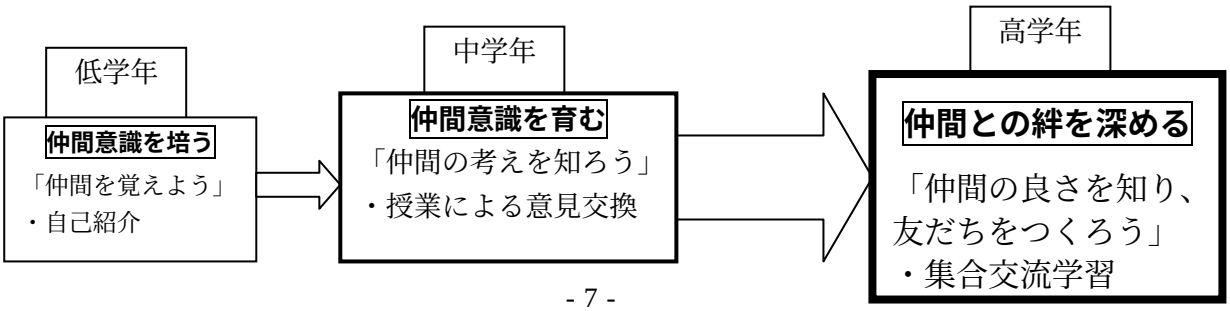
・　今回の学習成果を学びの扉を利用し、児童間の交流に役立てたらどうかと思われる。

⑤　研究実践Ⅳ　テレビ会議システム　鳥を知ろう（総合的な学習）　今井小担当

○　対象学年　中学年（３・４年生）
○　ねらい
・　３校に共通した自然をテーマとして、鳥について知識と理解を深める。
・　互いの総合的な学習の取り組みを知り、他の学校や他の学習に興味を持たせる。
○　日時　平成２１年２月１０日（火）　１３：５５～１４：４０
○　学習の流れ
・　あいさつ（今井小学校長）……３分
・　総合的な学習の取り組みの紹介……各学校５分（池野小・栗栖小）
・　鳥に関わるクイズ（今井小）……２５分
　巣箱　　給餌　　野鳥
・　犬山で見られる野鳥の紹介
・　おわりのあいさつ……３分

○　今後の交流
・　学びの扉での発言と意見交換
○　成果と課題
・　音と映像との交信のラグタイムがあり、なかなかスムーズには会が進められなかった。
・　はっきりとしゃべらないと声が聞きづらいものであった。
・　鳥についてのクイズは、分かりやすく、子どもたちにも高評であった。
・　インターネットを用いたテレビ会議では、特に中学年の方がよく質問がで、意見交換が活発になる。
・　説明をするときは、せっかく映像もあるので、言葉だけではなく、絵やボードで説明するなどの工夫をすると良い。
・　子どもたちが説明する際には、担任がしっかりといろいろな場合を想定しながら指導しておく必要がある。

（２）　二年次の実践（平成２１年度）
①　活動計画
今年度は、各学年で取り組む流れを大幅に見直し、全学年を通じた交流活動を行うことを目的で計画を練った。低学年では、これから、６年間を見据えて、インターネットを通して、自分の名前や顔・声をそれぞれの学校の仲間に伝え合うことで、交流し、山の手３校の仲間としての意識を培うことを目的としている。中学年では、低学年で知り合った仲間とインターネット上の授業を通した意見交換を行い、仲間の考えを知り深め合い、三校の仲間としての育むことを目的としている。そして、高学年では、これまでの４年・５年間を通して、実際に会って交流することで、温めてきた仲間意識をさらに強くし、山の手３校の仲間の絆を深めることを目的として、今年度の活動計画を行った。



今後の交流活動担当学校のローテーション

| 交流 | 平成２１年 | 平成２２年 | 平成２３年 | 平成２４年 | 平成２５年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 低学年 | 今井小 | 池野小 | 栗栖小 | 今井小 | 池野小 |
| 中学年 | 池野小 | 栗栖小 | 今井小 | 池野小 | 栗栖小 |
| 高学年 | 栗栖小 | 今井小 | 池野小 | 栗栖小 | 今井小 |

② 研究実践Ⅰ（第１回　低学年交流会）　～同じ学年の仲間を知ろう～　　担当：今井小

○ 期日　６月２３日（金）１３：５５～１４：４０（４５分間）

○ 対象児童　低学年（１・２年生）（池野小２３名・今井小８名・栗栖小３名）

○ 目　的

・ 山の手３校について学習し、３校の仲間を知る。

・ マルチメディアを通して自己を表現する気持ちを持つ。

・ 同学年の仲間を知り、今後の活動への意欲につなげる。

○ 交流の流れ（司会：今井小　森田）

① 今井小学校中野校長あいさつ（２分）

② 各学校から、個人発表（自己紹介・がんばっていること等）と、学年発表（現在、生活科で取り組んでいること・学年（学校）の紹介等）を発表し交流する。

・ 池野小１年生１２人（９分）→栗栖小１年３人（４．５分）→今井小１年２人（４分）

・ 質疑（５分）

・ 池野小２年１１人（８．５分）→今井小６人（６分）

・ 質疑（５分）

③ おわりに（森田）

○ 交流の評価と課題

＜子どもの感想＞

今年度から、実施した低学年の交流については、子どもたちに感想からは、自分や自分の学校中心の感想が多かったが、山の手三校の仲間がいるということを知り、「これからもっと知りたい」「仲良くしたい」という意見やネットワークを活用することにびっくりする児童もいて、マルチメディアを活用して、低学年からの意識を培うという点においては、評価が高いと考えられる。

・ てれびにいけのしょうがっこうといまいしょうがっこうとくりすしょうがっこうがうつっていました。さいしょにうたをうたったよ。はっぴょうするときは、ちょっとはずかしかったけどがんばったよ。（１年生）

・ いまいしょうがっこうとくりすしょうがっこうといっぱいおしゃべりしたよ。いっぱいあそんで、なかよしになりたいです。みんなでなかよしにしたいです。（１年生）

・ てれびにでてびっくりしたよ。はじめてだけど、じょうずにできたよ。おもしろかったよ。（１年生）

・ じこしょうかいがきんちょうしました。けどできました。しらないひととしゃべれました。（１年生）

・ さんこうねっとわーくでしっているこがいてよかったです。もうすこしじょうずにいいたかったです。きんちょうしました。（１年生）

・ しっているこがいてとてもたのしかったです。すごくきんちょうしたけど、ちゃんとできたとおもいます。（１年生）

・ みんなのなまえがおぼえたいです。みんなとであえてよかったです。（１年生）

・ とおくなのにてれびでいっしょにしゃべれてすごいとおもいました。どうしてしゃべれるのかなとおもいました。（１年生）

・ ぼくはこうりゅう会をしました。テレビをつなげてぼくたちがべんきょうしてきたたんぽぽのことやじこしょうかいをしました。じこうしょかいでは、７月にやるドッチビーの大会のことについてはなしました。とてもうれしいです。（２年生）

・ １年生は「あひるのあくび」をはっぴょうしていました。次に２年生がやりました。はじめにじこしょうかいをしました。わたしはいっしょうけんめいに大きな声を出しました。そのつぎにたんぽぽについてべん

きょうしました。きょうはたのしいいちにちでした。（２年生）

・　つぎにくりす小学校の子がやってくれました。とちゅうで中の先生がでてきたので、みんなで、「中の先生。」とよびました。すると、「こんにちは。」といってくれました。うれしかったです。ほかの学校の子もみんなじょうずでした。しつもんやかんそうをみんないっていました。（２年生）

・　くりす小学校の１年生は３人で２年生がいないのでびっくりしました。池野小学校の人数が一ばん多かったです。今井小の一年生も２人で、すごくすくないのでビックリしました。じこしょうかいは、ちょっとどきどきしましたが、うまくできたのでほっとしました。（２年生）

・　きんちょうしたけど、たのしかったし、おもしろかったです。こんどもしやるときは、しつもんやかんそうをはっぴょうしたいとおもいます。（２年生）

・　ほかの小学校とどうやってつながっているのかふしぎでした。しくみを先生に聞いてみたいです。たのしい１時間になりました。（２年生）

・　わたしがじこしょうかいを読んでいるときには私がうつっているから、少しはずかしかったです。（２年生）

【１年生の絵より】

＜成果と考察＞

低学年では初めての試みであるため、不安もあるが、発表するという表現活動の場を設定ができ、山の手３校の仲間としての興味と意識付けができたと思う。ただ、人数が多い学校ほど交流活動に向けた準備が必要となってくる。池野小学校の１・２年生の担任は、この準備に向けて、歌を歌う練習をさせたり、個々の子どもの発表の原稿の点検・調整し、流れ（シナリオ）をつくる時間がかかったり、また、特徴のある活動の様子をビデオカメラで撮影し、編集したりと､発表に向けての時間を費やさねばならなかった｡マルチメディアを活用した交流活動を、今後手軽にそして、頻繁に行っていこうとすることを考えると、準備の時間をなるべくかけない交流の学習プログラムを生み出していかなくてはならないと考える。

音声については、タイムラグがあるものの、昨年度よりは、格段に音声マイクの性能がよくなり、相手の声がよく聞き取りやすくなった。しかしながら、発表しているときは、発表者側のスピーカー音は途切れているため、自分の声の大きさがわからずに、相手の学校にどう伝わっているかが不安であるように感じた。どのぐらいかを指導するための、事前のリハーサルが必要であると思われる。

映像については、今後、カメラ性能により、序々によくなってきていると考えられ、ハイビジョン化されていけば、子どもたちの表情が鮮明になるものと思われる。ただ、カメラを動かす人手と、その場面、場面を的確に捉えて、映し出す会の流れの構成が必要となる。また、子

どもたち側にとって、自分の姿が映し出されることには、大変興味があり、楽しいものでもある。しかし、逆に、それにより、相手校の意識が薄らいでしまったり、自分の姿に恥ずかしさを覚えてしまったりするような場面がある。特に今回の低学年での交流の場合、自分の姿が映し出されているために、不必要な動きをしてふざける場面があった。３校による交流活動に、発表している自分は、画面を映し出さないという画面設定も考慮していかなくてはならないと思われた。

さらに、こうした活動には、ＩＣＣなど業者との協力が不可欠となる。高級な機材があってこそ、音声も映像もバーチャル的にも満足でき、達成感があるものであると考えられる。費用面をどのようにクリアーしていくかを考え､無理なく交流ができるメディア方法を見つけ出し、より長く、山の手３校の仲間として、意識を持って学習していこう気持ちを持続させるかが大切になると思われる。

・　テレビ会議システムを利用した交流は低学年では、難しい感じがする。
・　互いの情報が一方通行で、十分な交流とまではいかなかった。
・　交流であるから、意見交換を重視した活動をもっと取り入れると良かった。
・　子どもたちは、どの学校も熱心に取り組んでいて思いが伝わった。
・　児童にカメラを持たせて、移動して学校の特徴を伝え合ったらどうか。
・　今後、テレビ会議システムで生の良さをどのように出すかの学習プログラムを十分に検討する必要がある。
・　教師間のインターネットを利用し、もっと事前に交流する内容などを検討する必要があると思った。
・　低学年では、子どもたち自分の考えを述べるに終わってしまうが、どんな子どもたちがいるかを理解することができて、次の学年への足かがりとなる。
・　マルチメディアを通して、発表することに重きを置き、自己表現を獲得させる狙いで行った会としては大変意義深いものあり、子どもたちも満足して発表することができたと思う。
・　発表のしたかについては事前の打ち合わせ（例）があったが、質問の仕方や質問の内容の見つけ方については、事前にそれぞれの学校で意識して準備する必要があった。（発表することで精一杯あったと思われる。）

②　研究実践Ⅱ（第２回　高学年交流会）　～ゲームを通して仲間の絆を深めよう～

○　３校交流グランドゴルフ（於：栗栖小、犬山市栗栖桃太郎公園）　担当校：栗栖小

○　ねらい

・　今までメールなどで知り合った仲間と出会い、仲間意識の絆を深める。
・　ゲームを通して互いに楽しみ、コミュニケーション能力の育成を図る。

○　内容

・　地元の老人クラブの支援のもと、３校の児童をグループ分けし、グランドゴルフを楽しむ。

○　期日　１１月１８日（水）　９時３０分～１１時１５分

９：３０　集合

９：５０　開会式

１０：００　スタート

１１：００　終了、グループで懇親

１１：３０　成績発表

１１：４５　解散

○　対象児童　高学年（５・６年生）（池野小２５名・今井小１２名・栗栖小７名）

○　第２回交流会に向けたマルチメディア活用（１１月５日～１３日）

グランドゴルフで行うグループ毎に、「学びの扉」への自己紹介を書き込みと閲覧

＜目　的＞

・　第２回交流会で出会う子どもたちに、事前に顔や名前等を知ることによって、仲間意識を付けさせ、当日の活動をよりスムーズにする。

・　交流事業としての実績を考慮し、第２回の交流会にむけて、事前にネットワークを活用し、交流活動への意欲付けとする。

＜交流活動＞

・　各学校で、それぞれ次のことについて取り組み、当日に活動を円滑にする。

①　事前にグループごとに自己紹介を入力する。（１１月５日～１１日）

②　「学びの扉」を使い、グループごとに分けられたコーナーに一人一人自己紹介を書き込み、公開する。（１１月９日～１３日）

③　それぞれのコーナーを各学校で閲覧し、顔・名前等を確認して気持ちを高める。（随時）

○　交流会の評価と課題

［教員の評価と反省］

＜交流内容＞

・　実際ふれあうことができる活動で良かった。

・　どの学校もしっかりと取り組んでいた。

・　地域の老人クラブの支援もあり、栗栖小の担当としては大変助かった。

・　グラウンドゴルフは、初心者にも分かりやすく児童の交流には適してしたと思われる。

・　担当の栗栖小学校の先生方、児童、地域の方々にはたいへんお骨折りをかけたが、特別な準備や練習をしなくとも、事前及び当日のルール確認で十分取り組める内容で良かった。

・　栗栖地区の老人クラブの方に各チームに入っていただけてありがたかった。児童と一緒に各ホールを回り、グランドゴルフのルールや動きについて丁寧に教えていただけ、たいへん心強かった。

＜時期＞

・　三校の行事をあわせるのは、難しいと思うが、なるべく学校の行事に負担のないようにできたらよいのではないか。

＜ネットでの事前交流＞

・　「返事を書きたい」という子どもが多くいた。
・　事前に誰と一緒に活動するか分かり、意欲がわいていた。
・　自己紹介があったので、当日の自己紹介も時間がいらず活動の時間を十分確保できた。
・　活動後の交流がないので、事前にもっと積極的に交流することができたら良かった。そうすれば、当日の交流がもっと活発になったと思われる。
・ 子どもたちから「返事をしたい」という声が聞こえたので、自己紹介だけでなく、メールでの交流を２、３回実施してもよかったのではないか。
・　係の先生の指導で、グループごとにスムーズに事前交流することができた。

＜活動の様子＞

・　班の雰囲気によって差はあったが、「もっとグランドゴルフをしたい」「友だちができてよかった」等と、とても楽しそうであった。
・　事前の自己紹介と書き込みの内容から、相手がよくわかり、当日の活動に自信を持って臨んでいる様子が感じられた。
・　見るのも触るのも初めての児童が多く、手探りでの交流だったが、事前のネットでの自己紹介のおかげで、活発に話したり、一緒に取り組んだりすることができた。
・　グラウンドゴルフを通して他校の児童と仲良く話をしている姿が見られ、良い交流の場となったと思われた。
・　各グループに、栗栖小１～２名、池野小４～５名、今井小３名と、各学校の児童がほぼ均等になるように人数を分けていただいた。誰とでもすぐに親しく接することのできる児童もいたし、顔なじみの子がおり、非常に会話の弾んだ児童もあった。中にはずっと声をかけてもらうのを待っており､自分からはなかなか積極的に交流することができない児童もあった。日頃とは異なった児童の様々な姿が見られ、小規模校にとって、このような交流学習の場を設けていただけることは意義深いことだと改めて感じた。

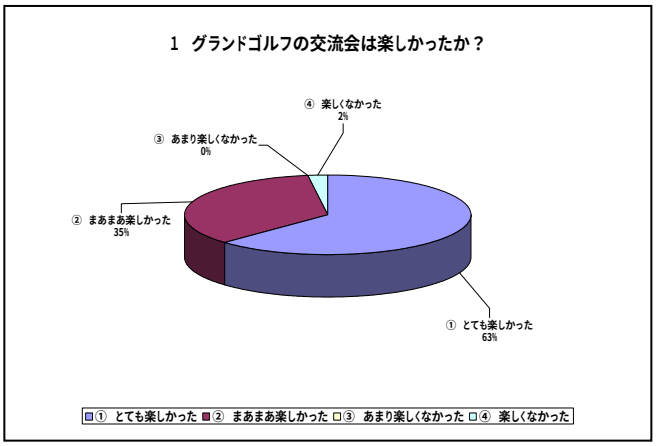
＜教師の支援＞

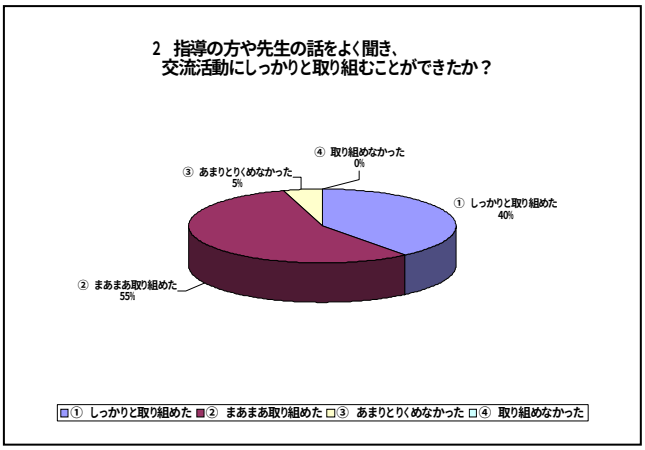
・　インターネット上でのマナー（ネチケット）についての学習を事前にする必要がある。
・　なるべく教師が児童の中に入って、話しかけないように心がけた。
・　グループ編成を始め、事前準備がうまくいったので、当日の流れも良かった。
・　教師がグループごとに分かれるのではなく、巡回の形を取るように計画されていた。教師主導のグループ活動ではなく、教師はあくまでもサポート役であるという点が良かったと思う。児童は教師に頼るのではなく自分たちで交流しようという気持ちが高まっていた。お年寄りの方が、学校の区別なく一人一人に声をかけてくださっていたのも、たいへんありがたかった。

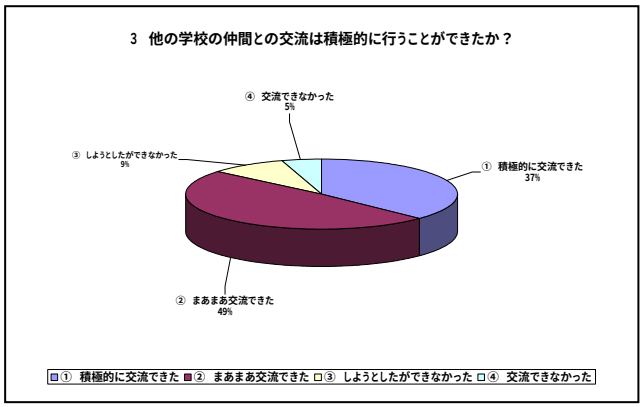
＜その他＞

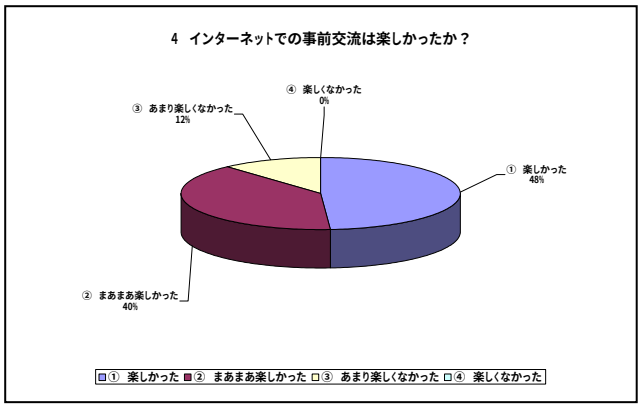
・　今回のようなスポーツは、より自然に交流ができる。
・　担当校に、負担を掛けないように、準備の分担もしていく必要がある。
・　３校交流学習の本来の意義を再度、見直す時期に来ているように思われる。
・　「学びの扉」の活用については、自己紹介にとどめるという事前打ち合わせがあったのに、返信があり戸惑った。

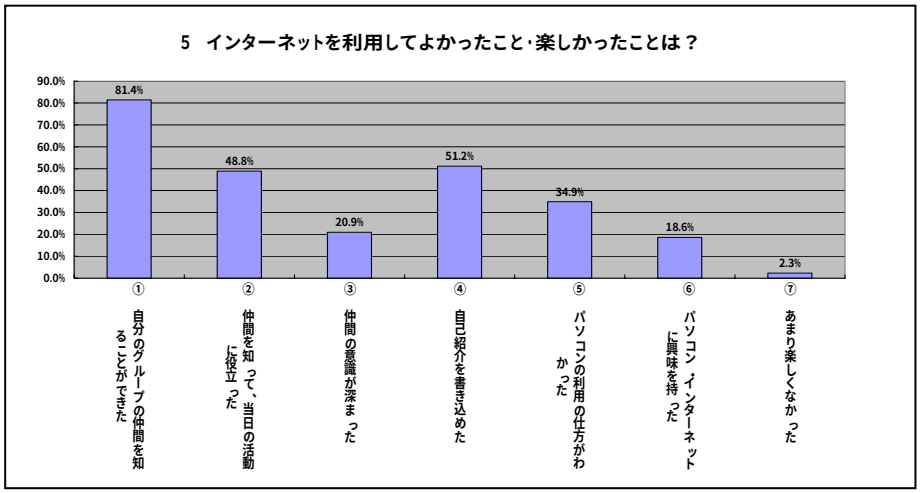
## 児童アンケート集計用紙



＜交流を通じて、印象に残ったことや他の学校の仲間とふれあって楽しかったこと＞

- グランドゴルフがとても楽しかった。好きになった。
- 友だちがたくさんできた。
- たくさん話ができてよかった。
- みんなが教えてくれてうれしかった。
- グランドゴルフを家族でもやってみたい。
- 自分から話しかけられた。
- 来年は今年よりももっと話しかけられるようにしたい。（５年生）
- いろいろな友だちがいることがわかった。
- グランドゴルフを通じて友だちとの交流ができて良かった。
- 声を掛けてくれたり、自分が声かけができたり、ちゃんと答えてくれてうれしかった。
- 最後みんなでまるくなって話ができて楽しかった。
- ゲームを通じて、「がんばれ」と励まさせてうれしかった。
- グループの子に「すごいね」「がんばったじゃん」「次回はもっと減らそう」等と励まさせてがんばろうという気持ちを持った。

＜インターネット交流についての感想＞

- もっと他の学校の人のことを知りたい。
- 事前に自分のグループの仲間を知れてよかった。安心した
- 学校内の案内をしたり、近くの名所を紹介したりしたい。
- 知らない仲間ことを事前に知って、実際に会って役に立った。
- お互いが好きなことや趣味が事前にわかっているから、親しみやすく自然に話ができた。
- いつまでも友だちとして交流をしていきたいと感じた。
- グループ内だけではなく、もっと他の子も知りたい。
- 毎月、３校でクイズなどを出しあって交流したい。
- インターネット交流を続けたい
- パソコンの利用の仕方がわかった。
- メールを続けたい。
- 話がしたい。（Ｗｅｂ上で）
- 動画などもできたらいいと思った。
- 詳しく書いてくれて良かった。
- 相手に返事を返したい。
- チャットやスカイプでも話をしたい。
- 男女関係なく友だちになりたい。
- 勉強について話をしてみたい。
- これからも交流を続けたい。

犬山の小規模小３校

グラウンドゴルフで交流

犬山市須衛の桃太郎を学べようと持ち回り開催し今年で四回目。公園で十八日、市内の小規模小学校三校の合同交流学習があり、五、六年生がグラウンドゴルフを体験した。

翠嶺小七人、諸野小二十五人、今井小十一人の児童が参加した。

ゲームは、違う学校の子ども四人でグループをつくり、十六ホールを回った。コーチは地元の愛嶺グラウンドゴルフクラブの高齢者十二人が務めた。

諸野小と今井小の児童らは初体験。「ここを狙って」「もっと強く」などコーチの指示通りにボールを打ち、次第にクラブさばきにも慣れ「うまい、うまい」と褒められた。

周囲の木々も色づき始め、児童たちは秋晴れの下で歓声を上げながら楽しく交流した。（野尻智雄）

グラウンドゴルフで交流する小規模小学校の児童＝犬山市桃太郎公園で

＜今後やってみたいこと＞

- 実際にあって話や一緒に遊びたい。
- キャンプやカードゲーム
- 野球やドッチビーなどがしたい。
- もっと大きな学校とも交流したい。
- スポーツ系や一緒に取り組むことを実際にしたい。

○　成果と考察

今回の交流活動の成果については、次の３点に挙げられる。

①　集合学習に至るまでに、事前のインターネット交流を通して、子どもたちが夢をふくらませ、当日の活動に意欲を持せることができた。

②　インターネットを通した事前の交流が、集合学習をよりスムーズにさせ、子どもたちに満足いく活動を保証することができた。

③　充実した集合活動は、さらに、今後もインターネットでの交流活動をしたいという気持ちを沸き立たせた。

①については、子どもたちのアンケート集計で、どの項目においても、当日の活動に満足する数値を示している点から、意欲を持って学習活動に取り組んだと考えられる。特に、子どもたちの具体的な感想から、「自分から話しかけることができた」「話しかけたらちゃんと答えてくれた」という感想は、子どもたちの自信の表れであり、事前の活動が当日への期待と意欲の表れへと引き出されたものであると考えられる。

②については、特に、５の項目で、「自分のグループの仲間を知ることができた」「自己紹介を書き込めた」という満足度が、半数を占めことからも、満足のいく事前活動であったことが挙げられる。それにより、当日の活動に役立ったと感じ、自分のグループでの仲間意識へつなげることができたものであると考える。

集合学習の当日の様子は、最初の自己紹介などがいらなく、いきなり、活動を開始することができたこと、また、ゲームを通して、互いに「がんばれ」「すごいね」等とはげまし合うまでに至った点、さらに、「車座で話をする時間が楽しかった」などの感想からも、当日の会がスムーズに流れ、「心の絆を深める交流活動」としての大きな成果を成し遂げたのであると思われる。

一方、③については、子どもたちの感想からも、「もっとメールがしたい」「チャットやＷｅｂカメラを使った話をこれからもっとしたい」という感想が多く出された。当日の集合活動を通して、今後も交流を続けたいという意見がある点に大いに成果があると考えられる。これは、事前でのインターネット交流が、当日の集合学習の成果を生み、さらに、事前のインターネット交流に戻すという点においては、意義深いものである。しかしながら、インターネットでの交流という点において、子どもたちの活動の時間の保証をしなくてはならないこともあり、さらに、教師の反省にあったように、ネットでのモラルの指導しておかないと、自由に行わせることで言いたいことを書き込んで仲間を中傷するネット犯罪へとつながる危惧を生み出すことも否めない。そのためのインターネット交流では、事前に、しっかりとしたモラルを教えていく時間を設定しなければない。また、３校で事前の打合に十分時間を掛け、共通理解をした上で、子どもの指導に当たっていく必要があるのではないかと思われる。

今回のインターネットでの事前交流では、なるべく時間を掛けずに、当日に活かすことに狙いを定めて設定した。そうした点には、大きな成果があるが、逆に、子どもたちの希望を叶え、今後の利用を考えると、インターネットでのモラルという点においては今後の課題を残したと考えられる。

③　研究実践Ⅲ（第３回　中学年交流会）　～クイズを通して仲間の良さを知ろう～

○　期日　１月２９日（金）１１：００～１２：００　　担当：池野小

○　対象児童　中学年（３・４年生）（池野小２４名・今井小１１名・栗栖小８名）

○　方法：インターネット　テレビ会議

○　授業：学活（池野小学校司会進行）

○　題材　ネットワークイズ

～　クイズで３校の仲間とふれ合おう　～

○　ねらい

・　インターネットを通して、３校の同学年の仲間とふれあい、仲間意識を育む。

・　クイズを通して、他校の仲間と競い合いながら、学習を深める。

・　インターネットを通して、自己表現能力を養い、また、同学年の仲間の考えを聞き、新た

な発見を助長する。

○　活動の流れ（６０分）

・　開会の言葉と交流について……２分　（池野小　４年生児童）
・　各学校、学年紹介……８分（今井小２分　栗栖小２分　池野小４分）
・　漢字クイズ（司会：池野小３年生）……１５分
（「にんべん」のつく漢字集め、パン（ぱん）のつく言葉集め、漢字しりとり等）
・　映像クイズ（司会：池野小４年生）……１５分
（モザイク当てクイズ、渦巻きクイズ、フェードクイズ）
・　結果発表（池野小３年児童）……１分
・　感想発表（人数問わず）……４分（栗栖小１分　今井小１分　池野小２分）
・　高評（池野小学校校長）……３分　※ここでインターネットは終了
・　アンケート記入（各学校）……１０分

○　支援と準備

＜教師＞

・　画面をよく見たり画面の中の他校の仲間の考えや行動に注意してみたりするように促す。
・　答えや意見発表の仕方（はっきりと元気よく）
・　学級紹介の原稿と映像・発表の仕方などの指導と支援。
・　クイズの場面での、各校の児童の様子の観察と支援
・　漢字クイズでの、ホワイトボードとマジックの用意
・　映像クイズで、答えがわかった場合の鳴り物
・　感想発表の児童の指名と発表の仕方の指導
・　事後のアンケート記入と来年度への意欲付け
・　成績表の作成と集計（コンピュータ画面）

＜業者＞

・　４画面（３校の児童の様子とコンピュータ画面の４画面）の入出力
・　クイズの場面での全面提示

○　交流の評価と課題

［教師反省］

＜交流内容＞

・　クイズで楽しみながら交流でき、よかったと思う。
・　クイズで楽しむことができて初めて会った友だちともスムーズに学習する雰囲気ができた。
・　事前には道徳も考えたが、会ったことの友だちとの交流ということを考え、みんなが楽しんで行う活動としていくためには、学活が望ましいと考えた。そして、ゲーム形式で行うことで、各学校が表現する場の確保を設定した。
・　漢字クイズは、子どもが今学習していることが反映されてよかった。
・　映像クイズは、不思議な画像があり、子どもたちも興味深く見ていた。
・　発表場面とクイズを答える場面での交流であり、子どもたちが相手に意見を述べたり、質問をしたりする真の意味での交流場面ができなかったのが残念である。

＜活動の様子＞

・　自分たちの様子が画面に映る場面が少なくやや物足りなかったようにも感じた。
・　とても楽しく活動していた。
・　みんなで協力していて、よい雰囲気だった。
・　画面が大変鮮明であり、音声もよく聞きとれたために臨場感あった。そのため、３校が一体となった。
・　知り合いがいることで、学級でも他の学校のことなども話題ができて、興味を持って会に臨んでいた。
・　学年の紹介で、それぞれの学年の特徴が分かり、共通なものや違いがわかり、興味深く相手の学校の話しを見聞きしていた。
・　映像を通して、他の学校の子どもたちに興味を持ち、親しみを覚え、実際に会ってみたくなったという気持ちを持った子どもたちが多かった。

＜教師の支援＞

・　クイズの答え合わせ以外には、基本的に何もしていない。機械の性能が高く、声や音がとてもよく聞こえたので、子どもたちだけで十分できたと思う。
・　子どもたちの様子を見ながら、真剣に画面を見たり、話したりしている様子を見てあまり手出しすることがなかった。
・　学年紹介で、自分たちで特徴を見つけて発表することができ、学級を見直す場ともなった。
・　クイズ作りは、教師が中心となって行ったが、子どもたちがアイデアを上乗せして作成し学級でも楽しい事前の学習ができた。
・　一人一人の名前を確認するための、名札が必要であった。
・　映像のクイズは、アイデアは子どもたちに任せ、作成は教師が行った。こうした高画質の機材が常時利用できれば楽しいクイズができると思う。

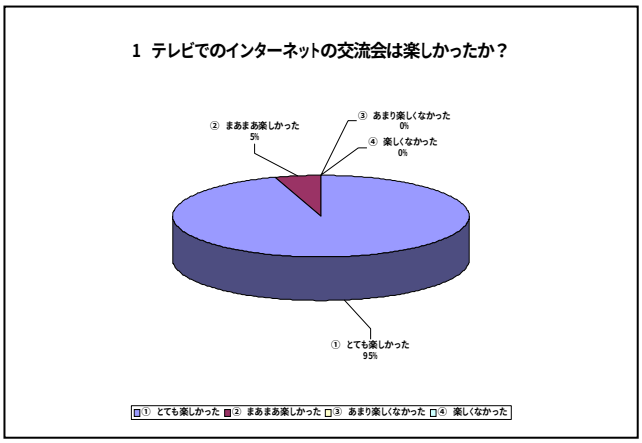
＜ネットでの事前交流＞

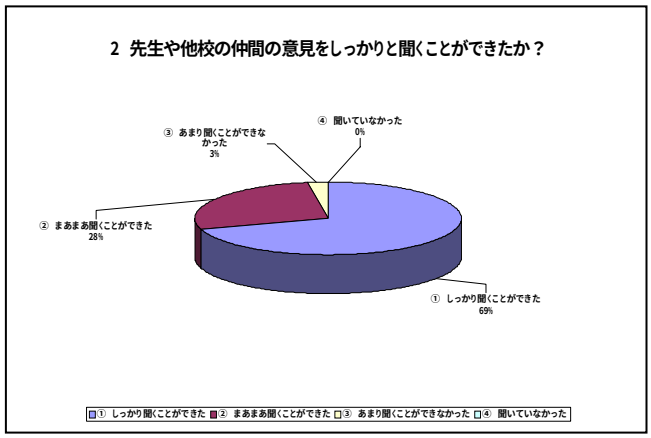
・　各校の状況に応じて行ってよいと思う。
・　可能なら、事前に何らかの形で交流できれば、当日はもっとよい交流になるかもしれない。
・　事前の交流は、（知らない相手であるという点から）必要がないと思うが、子どもたちが仲間意識を持った事後に何らかの交流があると思う。４年生は、３年生での積み上げがあるので、わかった仲間に、事前の交流をしていくこともよいと思う。

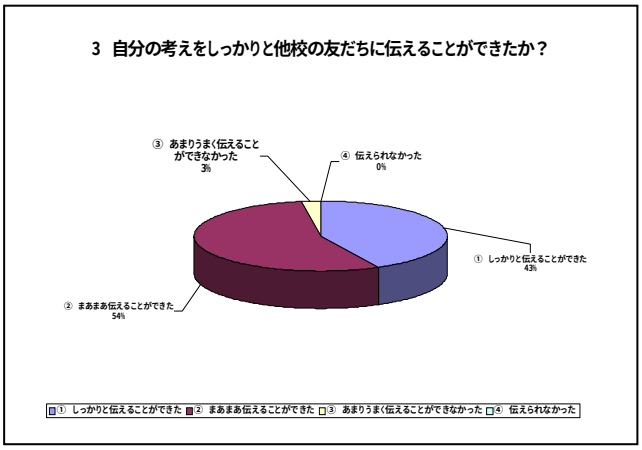
＜その他＞

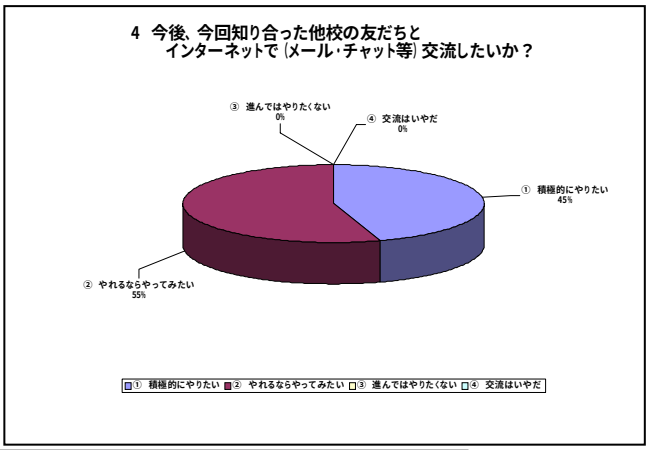
・　アンケートの内容が中学年にはやや難しく、ふりがなも必要であった。

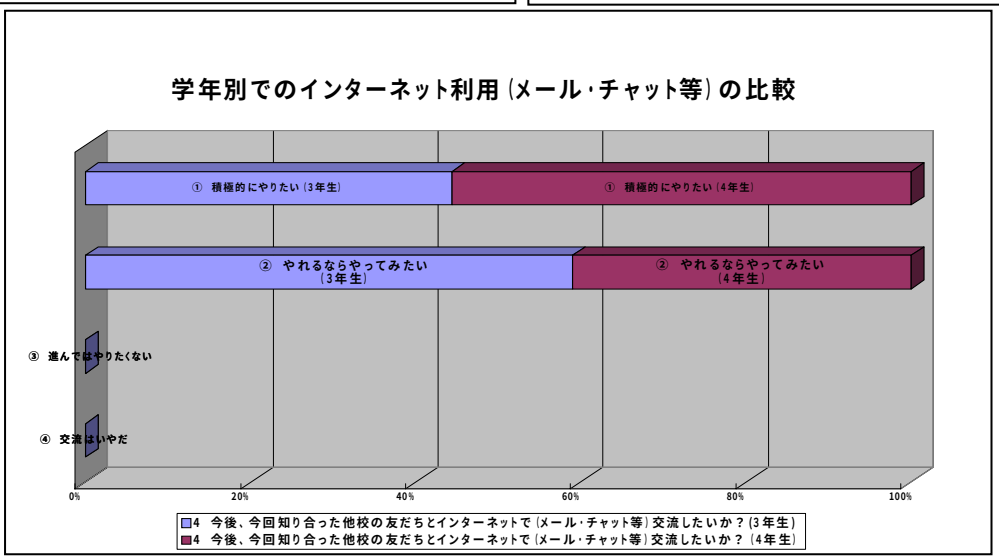
児童アンケート集計用紙






○　テレビの中の他の学校とふれあって楽しかったことを書きましょう

- 去年の交流会より、よく他の学校の人の顔がよく見えたり、声も聞きとることができたりした。
- クイズやゲームが楽しかった
- テレビで初めてクイズをしたから楽しかった。
- 他の学校の人の名前が覚えられた。
- 学校対戦のゲームで楽しかった。（多数）
- 他の学校の様子を知れてよかった。
- 他の学校の子が自分の知らない字を知っていたので、すごいと思った。
- 他の学校の子たちは、元気がいいことがわかった。
- テレビで交流できるなんておもしろくてすごいと思った。
- とても分かりやすい司会をしてくれて楽しかった。
- 知っている子が映っていてうれしかった。
- テレビを通してふれ合うことができてよかった。
- 順位に関係なく楽しくできてよかった。
- どうやって、映像クイズをつくっているのかなと思いました。
- １年ぶりに会えてよかった。また会える機会があれば会いたいと思った。
- 担当するクイズや司会を一生懸命に準備できて楽しかった。
- 他の学校の子たちも自分たちと同じ一輪車に取り組んでいたり、自分たちとは違って笛を吹いたりするのに驚いた。
- いろいろなことをいって笑わせてくれて友だちになることができた。
- 他の学校のやっていることがよくわかった。（多数）
- 自分の学校より少ない人数でもとても元気で明るいと思った。
- 人数が少なくても、みんなで交流して盛り上がってよかった。
- 鳥が好きな子がいて、いつも観察をしていてすごいと思った。
- ３校でできたことがすごいと思った。
- 自分がしゃべっているときに、他の学校の子がしっかりと聞いてくれてうれしかった。（多数）

○　来年の交流会でやってみたいとこと

- それぞれの学校の様子がもっと知りたい。（多数）
- 鳥のことを教えてほしい。
- 今年と同じようなゲームがしたい。（多数）
- 鳥のクイズをしたい。
- 自分たちでもクイズを出していっぱいしゃべりたい。
- 実際に会っていろいろ話しをしたりしてふれ合いたい。（多数）
- もっと友だちを増やしたい。
- 映像のクイズを自分でも作って問題を出してみたい。
- みんなで鬼ごっこをしたり、遠足に行ったりしてみたい。
- 一人ずつの自己紹介を見て、他の学校の子と友達になりたい。
- 本当に会って遊んだり、いっしょに授業をしてみたい。
- 一輪車をいっしょにやってみたい。（多数）
- テレビ形式で、クイズを出してみたい。（多数）
- いっしょに探鳥会をしたい。
- いっしょに体験活動をしたい。
- メール交換をしたい。
- 他の学校とも問題を出し合ってみたい。
- 自分たちのすごいところをもっと見せられるようにしたい。

○　成果と考察

第１回の夏の（１・２年生）の交流活動の時に比べ、格段に機械の技術の進歩がめざましく、映像は、ハイビジョン型で、子どもたち一人一人の表情まで見ることができた。また、音声も、タイムラグがなく、子どもたちが無理なく他校の仲間と、インターネットを通して交流していて、本当に会っているような感覚で交流活動が行うことができた。まさに、日進月歩の世界であることを見せつけられた場であった。

今回の授業では、次の５点を考慮したことにより、学習活動を展開していくことで効果が得られたと考えられる。

①　３・４年生という活発な子どもたちの時期を考慮した活発な交流会としたい。
②　全員の子どもたちが、参加できる会としたい。
③　相手を意識しながら、初めて会う仲間にも積極的に、自分たちの考えや思ったことを伝えることができる会にしたい。
④　事前の業者との打合せでハイクオリティなインターネット会議の画像と音声が得られることから、画面と子どもたちの音声に集中して参加できる授業の工夫をしたい。
⑤　できるだけ画面上の相手を意識させるために自分たちの映っている画像を少なく（小さく）したい。

これらを考慮し、３・４年生の交流は「クイズを通した学級活動の授業展開」となった。

子どもたちの当日の様子は、事前の打ち合わせで、子どもの活動を明確にしておいたことで、自信を持ってそれぞれの発表ができていた。また、学習する姿勢も画面上でふざける子ども全くなく、落ち着いた雰囲気で取り組み、画面と音声に集中していた。

アンケート集計の結果を見ても、すべての問いに、楽しく学習することができた様子が伝わってくるものが多く、満足いく成果が得られたと思われる。来年の交流会にむけた感想で、他校の特徴と自分たちとの共通点や違いなどをよく感じとり、そうした交流を望む意見が出されたことは、３校の子どもたちに共通した仲間意識を持たせる授業づくりができたものと思われる。

今回は、インターネットへの興味を学年ごとで集計してみた。やはり、３年生より４年生の方が授業を終えた後、他の子どもたちとの交流を続けたいという結果が表れた。３年生にとっては、初めての会であったこともあるが、次の４年生に向けた交流会への期待を持たせる意欲付けをすることができたと思う。４年生では、こうしたインターネットでの交流を続けながら、来年度の集合学習につなげていくことも考えながら、来年度の計画を練っていきたい。

しかしながら、映像やメールを通して、親しみを持つことだけでよいということではない。インターネット上で、子どもたちだけが一人歩きし始めると、情報だけで交流することが、相手の状況を考えずに自分の気持ちだけを一方的に伝える危険性もはらんでいる。そのために、学校ごとに行うインターネットの使い方とモラルの学習、３校で行うインターネット活動、そして、授業として行う交流活動という、３つ活動の位置づけを、３校で十分検討なければならない。その第一歩として、３校ネットワーク事業を、子どもたちの力で進めさせていく上で、独自のカリキュラムづくりをすることが必要である。

④　研究実践Ⅳ（教員の取り組み）　小規模ネットワーク役員会　テレビ会議

○　日時　平成２２年1月２９日（金）　１５：３０～

○　出席者　　３校校長・庶務・各校役員３名

○　会議内容

・　あいさつ……委員長
・　第３回（中学年）交流会の反省……庶務
・　今年度の反省と次年度の活動……庶務
・　会計について……会計
・　閉会の言葉……副委員長

○　成果と今後の課題

今年度最後の会議を第３回交流会の午後に行った。子どもたちだけではなく、教員もインターネットを活用したテレビ会議システムを用いた会議を行った。機材搬出の関係上、３０分あまりの会議であったが、最初は、顔は見えるが、空気が読めない（伝わらない）雰囲気に、なかなかなじむことができなかった。しかし、時間と共に、相手との距離感がなくなり、建設的な意見が出されるようになった。もっと時間があれば、さらに、相手との距離が縮まり、もっとスムーズな会話から発展的な考えや方法などが生まれると予想とれる。

テレビ会議システムを用いることが、時間的にも、また、費用面でも格段に節約されることが確認された。

４．研究の成果と今後の課題

子どもにとっては、新たな友だちをつくることは楽しみでもあるが、逆に、すぐに友だちになれるかどうかという不安もある。この２年間を通じて、子どもたちは、自分の学校でない友だちと知り合い、絆を深めようとした。そのきっかけをつくったのが、テレビ会議システムである。テレビ会議の後、インターネットを通して知り合った仲間とふれあい、メールを通して自分の意見や相手の考えを述べ合う生き生きとした姿が感じられた。また、事前にインターネットで交流した後、集合学習を行うことは、自然と子どもたちが溶け込み、会がスムーズに運営され、思い出深い会として成立した。

この２年の大きな流れとして、一部の学年で行った活動を、全校で行う活動として広げて取り組んだことには大きな意義がある。そして、この研究を通して、次のような成果が挙げられる。

○　インターネットを用いたＴＶ会議による交流活動を行うことで、小規模校の学校でも、大きな集

団としての意識が生まれ、生き生きした姿が交流活動で現れるようになった。

○　一部の学年で行ってきた行事を、低学年から系統的に行う活動として設定することで、全校に意識付けがされ、学校全体の特色ある学習活動として、職員の意識が高くなった。

○　全学年で取り組む活動であるために、１年ごとに出会いと成長が感じられ、少しずつ他の学校の同学年の仲間を意識し、さらに、自分のたちの学年や学校を見直すきっかけにもつながっていく。

○　他の学校の良さを認め、それを自分たちにも取り入れようとする気持ちが芽生え、学習意欲や学校生活の意欲付けにつながる。

○　毎年行うことで、高学年で集合学習として実際に会ったときの仲間意識が大きくなり、出会うことへの感動がより強くなる。

○　子どもたちのインターネットへの興味と同時双方で行うことができるテレビ会議システムの技術への興味から、情報教育への関心・意欲が高まった。

○　子どもの交流活動であるが、交流当日までに、準備をしたり、話し合ったりすることで、３校の指導者の交流が活発になった。

○　機材の高性能化がされることで、子どもたちが進行をしてしながら主体の交流活動ができ、インターネット上でも、よりリアルな交流となる。

しかしながら、３校による交流という点からも、次のような課題も浮き彫りにされた。

○　平成２３年度から始まる新しい教育課程のなかでこの学習活動としてどのように位置づけをしていくのか。

○　学習活動して位置づけていくためには、３校で共通した３校独自のカリキュラムを作らなくてはならない。

○　インターネット交流の学年によるモラル指導のマニュアル化を図らなければならない。

○　３校間の職員の交流を図り、共通理解と活動に向けての意欲化を図る。

○　協力いただく業者に頼ることなく、日々進化するコンピュータ関連の機材を充実と、さらに、職員の研修を深める必要がある。

また、今後、推進していかなければならないこととしては、次の３点が挙げられる。

①　今年度までの流れの中では、集合学習を終点として、そのためのインターネット活用であったが、再度、集合学習の学年の位置づけを見直し、インターネット利用の場をどのように組み合わせて位置つげ、育てたい子どもの姿を明確した教育を展開していく。

②　インターネットやテレビ会議システムで行うことができる交流活動の掘り出しと精選を行い、活動のために支援する指導者の技術の向上を目指す。

③　教員間においても、テレビ会議システムを利用した交流を推進する。

この３点を大きなねらいとして、犬山にある小規模校３校の、特色ある教育づくりを、今後とも行っていきたいと考えている。